

『目からウロコの海外資料館めぐり』を書き上げて

三輪 宗弘(記録資料館 教授)

私は海外アーカイブや図書館を訪問した記録を、九州大学図書館のホームページで紹介し続けてきた。再び足を運ぶと、入館手続や資料請求の変更があれば、加筆訂正し、最新の情報を書き込んだ。アーカイブで資料を請求しながら、その場で更新したり、ホテルに戻って更新したり、帰国後メモを眺めながら、書き加えたりした。

九州大学ホームページ「アーカイブ情報あれこれ」は毎日平均すると20のアクセスがあり、夏季休暇前から増えはじめ、夏休み機関中は30~40にアクセス件数が増える。これは小生のホームページを読み、米国国立公文書館や英国国立公文書館(TNA)での調査をしていたからであろう。アクセス件数が多いのは、米国国立公文書館II、米国議会図書館(LC)、大英図書館(British Library)、英国国立公文書館である。日本国内で閲覧件数が多いのは、靖国神社借行文庫と奈良県立図書情報館である。軍事史関係資料が揃っているからであろう。

クロスカルチャー出版から6月に刊行した拙書は、公共の図書館で購入されたようでカーリルで検索すると東京の公立図書館の40館で所蔵されている(令和2年1月1日)。CiNiiで検索すると大学図書館では50館で購入されている。本書が購読者と想定したのが、大学院生や大学若手研究者(助教、講師、准教授)で、特に研究費がない大学院生であった。格安のB&B、ユースホテル、チェーンホテルを紹介し、バスの乗り方、食事のとり方、古本屋めぐりなどに紙幅を割いた。

「はしがき」「あとがき」にはさりげなく筆者のこれまでの研究の成果が盛り込まれているので、目を開いて読んでいただきたい。資料を45年間非公開にした米海軍の事例を入れたが、これは資料を「非公開」にすることで、資料が残り、後日公開されるということを言いたかった。この点を日本の研究者は指摘しないし、マスコミも取り上げないが、この点の重要性を指摘しなかった。米海軍は真珠湾関係の調査レポートを45年間非公開にしたが、当時政治問題化し加熟したからやむを得なかっただろう。45年後に報告書が公開されたことで、「真珠湾陰謀説」の根拠が霧散したと私は思った。

角田順などの「太平洋戦争への道」で捏造されたインタビューが使われていることを入れたが、一次資料に当り直して研究しなければならないということである。海軍少将高田利種のインタビュー記録は捏造され、本人の了解を得ずに公開されている。ひどいことをするものだ。山本五十六の書簡とされる「五峯録」も書簡原本がないのである。それにもかかわらず、山本五十六は開戦に反対した証拠とされているのである。正に「笑話」史である。若い研究者には一次資料で確認するという、一次資料にどの程度依拠して書かれているのかということを常に意識していただきたい。

オーストラリア国会図書館のR.G. Casey日記もハル・ノートを調べる過程で遭遇した超一級資料であった。ハル・ノート関係の資料は英豪の資料と米の資料に相違がある。米国国立公文書館には暫定協定案に関しては相当資料が公開されているが、ハル・ノートに関しては少なく、小生が狙った資料はなかった。これは例外的で、総じて米国の資料の公開はすすんでいる。我が国の国立公文書館の資料公開のレベルはあまりにも御粗末である。

南京の中国第二歴史档案馆の日本の傀儡と酷評されている汪兆銘政

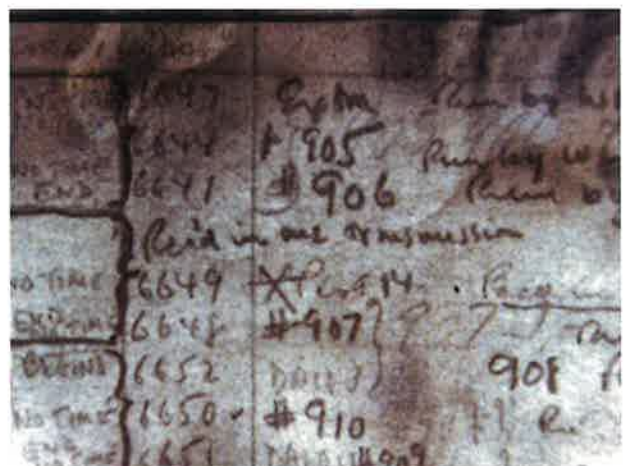
権関係の膨大な資料が残されていることにも驚いたが、閲覧には様々な制約があることがわかった。ただこれだけ資料が残されていれば、歴史評価は二転三転するだろう。韓国のアーカイブの展示には批判的に書いたが、プロパガンダの展示になっている。資料が恣意的に展示され、イデオロギーに陥る危険性を緩和するという資料の持つ良さを台無しにしている。これは我が国にとっては「反面教師」になる。資料を政争の具にするマイナス面を垣間見ることができる。

米国議会図書館Manuscript Libraryの所蔵資料については紙数を割り当てるべきだった。また所蔵されているコレクションも入れておくべきだった。この点は九州大学のホームページをご覧いただきたい。

北九州市教育委員会の文書改竄や体罰隠ぺいも書く予定であったが、これを入れるとページ数が大幅超過するのと、二兎を追うことになり、海外アーカイブの資料紹介という本来の目的を取り逃がすということで見送った。それでも「あとがき」で北九州市教育委員会の異常なブラック部活動に対する姿勢や体罰隠ぺい、文書改竄を簡潔に記せばよかったと思っている。拙書が売れてくれれば、増補版で書き足そう。

研究資金の少ない若い研究者に海外アーカイブで資料調査するガイドになれば幸いである。それによって、海外アーカイブの資料を自由勝手に都合のいいように引用する学者、研究者、歴史家を射抜く目を養えるであろう。また一国史観に陥ることが減るかもしれない。若手研究者が一次資料で論文を組み立てることに役立てばと願っているし、海外アーカイブの資料の充実を目のあたりにして、多くの人が日本のアーカイブもそれを習うべきだという声が上がると、キャッチアップするという狼煙になればと願っている。若い研究者が記録を残す事、公文書を選別することにも目を開くことにつながれば筆者として嬉しい限りである。

開戦通告の遅延が東京の外務本省にあることを裏けた訂正電報15時間遅れ(Extra, 906)の資料(米国国立公文書館II, RG457 E#9032 Box738)の写真を掲げて、結びとする。



傍受された交渉打切り通告の訂正電報の記録
(米国国立公文書館II, RG457 E#9032 Box738)